

### 191. メディカルチェック、フィジカルチェックのあり方

○下條仁士, 宮永 豊, 河野一郎, 白木 仁  
(筑波大学)

目的: スポーツ選手のメディカルチェックの問題点を分析し, より効果的で実用的なシステムのあり方を考える。問題点: 1. コンディショニングの成否。当大学のスポーツ選手 170 名を対象に 1 年間に出場した試合における達成度とコンディショニングについて調査した。達成度が良好と答えたものは約 45 % と半数以下で, 38 % のものは達成度が悪いと答えている。悪いと答えた理由はスポーツ医学的な問題が 38 % となっておりメディカルチェックを中心としたコンディショニング管理が重要であることがわかった。2. メディカルチェックの問題点。一般的ないわゆるメディカルチェックをスポーツ選手に当てはめることはすぐには困難である。選手, コーチ, トレーナー, ドクターが協力しておこなうきめ細かいコンディショニングの作業には不向きであることが多い。3. データベースの問題点。従来の健康診断を基本にしたデータベースでは選手個々のプロフィールや過去の競技成績, そのときのコンディションなどの情報が抜けることが多かった。4. フィードバックの問題。一般の健康診断ではその結果を受診者個人にフィードバックすればよいが, スポーツ選手の場合には選手本人だけでなく監督, コーチ, トレーナーといった人達にも情報を提供していかなければならないことが多い。以上の問題点をふまえてスポーツ選手のメディカルチェック, フィジカルチェックのシステムを効率よく進めるためには Problem Oriented System すなわち問題志向解決型のシステムが適していると考ええる。1. データベースの構築とデータの収集: データベースの基本となるのは一般健康状態のチェックであり, これは選手のコンディショニングとの関係で重要となる。さらに整形外科的なチェック, 突然死などの予防のための循環器系のチェックが必要となる。具体的には, (1) パーソナルプロフィール, (2) 主要大会の成績とコンディション, (3) 薬剤の使用歴とドーピングコントロール, (4) コーチの把握している選手の医学的問題, (5) トレーナーからみた選手の医学的問題, (6) 病歴の把握, (7) フィジカルチェック, (8) 検査, すなわち一般検査と特殊検査などである。これらのデータを収集し, 基礎データベースとする。2. データの整理統合とプロブレムリストの作成: 基礎データベースを統合してプロブレムリストを作成し, さらに早急に解決しなければならないアクティブプロブレムと早急ではないが今後競技力の向上に障害となる可能性のあるものをインアクティブプロブレムとしてリストに記入していく。3. 初期計画の立案。4. 監査。5. 結果のフィードバック。6. 健康管理の実施

1. メディカルチェック 2. スポーツ障害 3. POS システム